

医薬品インタビューフォーム

日本病院薬剤師会のIF記載要領2013に準拠して作成

冠循環改善剤

ジピリダモール静注液 10mg「日医工」

Dipyridamole

剤形	注射液
製剤の規制区分	処方箋医薬品（注意－医師等の処方箋により使用すること）
規格・含量	1管（2mL）中ジピリダモール 10mg 含有
一般名	和名：ジピリダモール 洋名：Dipyridamole
製造販売承認年月日 薬価基準収載・発売年月日	承認年月日：2012年8月3日 薬価基準収載：2014年6月20日 販売年月日：2014年6月20日
開発・製造販売（輸入）・ 提携・販売会社名	製造販売元：日医工株式会社
医薬情報担当者の連絡先	
問い合わせ窓口	日医工株式会社 お客様サポートセンター TEL：0120-517-215 FAX：076-442-8948 医療関係者向けホームページ http://www.nichiiko.co.jp/

本IFは2014年6月作成（第1版）の添付文書の記載に基づき改訂した。

最新の添付文書情報は、医薬品医療機器総合機構ホームページ

<http://www.pmda.go.jp/>にてご確認下さい。

IF利用の手引きの概要 —日本病院薬剤師会—

1. 医薬品インタビューフォーム作成の経緯

医療用医薬品の基本的な要約情報として医療用医薬品添付文書（以下、添付文書と略す）がある。医療現場で医師・薬剤師等の医療従事者が日常業務に必要な医薬品の適正使用情報を活用する際には、添付文書に記載された情報を裏付ける更に詳細な情報が必要な場合がある。

医療現場では、当該医薬品について製薬企業の医薬情報担当者等に情報の追加請求や質疑をして情報を補完して対処してきている。この際に必要な情報を網羅的に入手するための情報リストとしてインタビューフォームが誕生した。

昭和63年に日本病院薬剤師会（以下、日病薬と略す）学術第2小委員会が「医薬品インタビューフォーム」（以下、IFと略す）の位置付け並びにIF記載様式を策定した。その後、医療従事者向け並びに患者向け医薬品情報ニーズの変化を受けて、平成10年9月に日病薬学術第3小委員会においてIF記載要領の改訂が行われた。

更に10年が経過し、医薬品情報の創り手である製薬企業、使い手である医療現場の薬剤師、双方にとって薬事・医療環境は大きく変化したことを受けて、平成20年9月に日病薬医薬情報委員会においてIF記載要領2008が策定された。

IF記載要領2008では、IFを紙媒体の冊子として提供する方式から、PDF等の電磁的データとして提供すること（e-IF）が原則となった。この変更にあわせて、添付文書において「効能・効果の追加」、「警告・禁忌・重要な基本的注意の改訂」などの改訂があった場合に、改訂の根拠データを追加した最新版のe-IFが提供されることとなった。

最新版のe-IFは、（独）医薬品医療機器総合機構のホームページ（<http://www.pmda.go.jp/>）から一括して入手可能となっている。日本病院薬剤師会では、e-IFを掲載する医薬品情報提供ホームページが公式サイトであることに配慮して、薬価基準収載にあわせてe-IFの情報を検討する組織を設置して、個々のIFが添付文書を補完する適正使用情報として適切か審査・検討することとした。

2008年より年4回のインタビューフォーム検討会を開催した中で指摘してきた事項を再評価し、製薬企業にとっても、医師・薬剤師等にとっても、効率の良い情報源とすることを考えた。そこで今般、IF記載要領の一部改訂を行いIF記載要領2013として公表する運びとなった。

2. IFとは

IFは「添付文書等の情報を補完し、薬剤師等の医療従事者にとって日常業務に必要な、医薬品の品質管理のための情報、処方設計のための情報、調剤のための情報、医薬品の適正使用のための情報、薬学的な患者ケアのための情報等が集約された総合的な個別の医薬品解説書として、日病薬が記載要領を策定し、薬剤師等のために当該医薬品の製薬企業に作成及び提供を依頼している学術資料」と位置付けられる。

ただし、薬事法・製薬企業機密等に関わるもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師自らが評価・判断・提供すべき事項等はIFの記載事項とはならない。言い換えると、製薬企業から提供されたIFは、薬剤師自らが評価・判断・臨床適応するとともに、必要な補完をするものという認識を持つことを前提としている。

[IFの様式]

- ①規格はA4版、横書きとし、原則として9ポイント以上の字体（図表は除く）で記載し、一色刷りとする。ただし、添付文書で赤枠・赤字を用いた場合には、電子媒体ではこれに従うものとする。
- ②IF記載要領に基づき作成し、各項目名はゴシック体で記載する。
- ③表紙の記載は統一し、表紙に続けて日病薬作成の「IF利用の手引きの概要」の全文を記載するものとし、2頁にまとめる。

[IFの作成]

- ①IFは原則として製剤の投与経路別（内用剤、注射剤、外用剤）に作成される。
- ②IFに記載する項目及び配列は日病薬が策定したIF記載要領に準拠する。
- ③添付文書の内容を補完するとのIFの主旨に沿って必要な情報が記載される。
- ④製薬企業の機密等に関するもの、製薬企業の製剤努力を無効にするもの及び薬剤師をはじめ医療従事者自らが評価・判断・提供すべき事項については記載されない。
- ⑤「医薬品インタビューフォーム記載要領2013」（以下、「IF記載要領2013」と略す）により作成されたIFは、電子媒体での提供を基本とし、必要に応じて薬剤師が電子媒体（PDF）から印刷して使用する。企業での製本は必須ではない。

【IFの発行】

- ① 「IF記載要領2013」は、平成25年10月以降に承認された新医薬品から適用となる。
- ② 上記以外の医薬品については、「IF記載要領2013」による作成・提供は強制されるものではない。
- ③ 使用上の注意の改訂、再審査結果又は再評価結果（臨床再評価）が公表された時点並びに適応症の拡大等がなされ、記載すべき内容が大きく変わった場合にはIFが改訂される。

3. IFの利用にあたって

「IF記載要領2013」においては、PDFファイルによる電子媒体での提供を基本としている。情報を利用する薬剤師は、電子媒体から印刷して利用することが原則である。

電子媒体のIFについては、医薬品医療機器総合機構の医薬品医療機器情報提供ホームページに掲載場所が設定されている。

製薬企業は「医薬品インタビューフォーム作成の手引き」に従って作成・提供するが、IFの原点を踏まえ、医療現場に不足している情報やIF作成時に記載し難い情報等については製薬企業のMR等へのインタビューにより薬剤師等自らが内容を充実させ、IFの利用性を高める必要がある。

また、随時改訂される使用上の注意等に関する事項に関しては、IFが改訂されるまでの間は、当該医薬品の製薬企業が提供する添付文書やお知らせ文書等、あるいは医薬品医療機器情報配信サービス等により薬剤師等自らが整備するとともに、IFの使用にあたっては、最新の添付文書を医薬品医療機器情報提供ホームページで確認する。

なお、適正使用や安全性の確保の点から記載されている「臨床成績」や「主な外国での発売状況」に関する項目等は承認事項に関わることもあり、その取扱いには十分留意すべきである。

4. 利用に際しての留意点

IFを薬剤師等の日常業務において欠かすことができない医薬品情報源として活用して頂きたい。しかし、薬事法や医療用医薬品プロモーションコード等による規制により、製薬企業が医薬品情報として提供できる範囲には自ずと限界がある。IFは日病薬の記載要領を受けて、当該医薬品の製薬企業が作成・提供するものであることから、記載・表現には制約を受けざるを得ないことを認識しておかなければならない。

また製薬企業は、IFがあくまでも添付文書を補完する情報資材であり、今後インターネットでの公開等も踏まえ、薬事法上の広告規制に抵触しないよう留意し作成されていることを理解して情報を活用する必要がある。

(2013年4月改訂)

目 次

I. 概要に関する項目 -----	1	VII. 薬物動態に関する項目 -----	10
1. 開発の経緯.....	1	1. 血中濃度の推移・測定法.....	10
2. 製品の治療学的・製剤学的特性.....	1	2. 薬物速度論的パラメータ.....	10
II. 名称に関する項目 -----	2	3. 吸収.....	10
1. 販売名.....	2	4. 分布.....	10
2. 一般名.....	2	5. 代謝.....	11
3. 構造式又は示性式.....	2	6. 排泄.....	11
4. 分子式及び分子量.....	2	7. トランスポーターに関する情報.....	11
5. 化学名（命名法）.....	2	8. 透析等による除去率.....	11
6. 慣用名，別名，略号，記号番号.....	2	VIII. 安全性（使用上の注意等）に関する項目 -----	12
7. CAS登録番号.....	2	1. 警告内容とその理由.....	12
III. 有効成分に関する項目 -----	3	2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）... 12	
1. 物理化学的性質.....	3	3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由.....	12
2. 有効成分の各種条件下における安定性.....	3	4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由.....	12
3. 有効成分の確認試験法.....	3	5. 慎重投与内容とその理由.....	12
4. 有効成分の定量法.....	3	6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法.....	12
IV. 製剤に関する項目 -----	4	7. 相互作用.....	12
1. 剤形.....	4	8. 副作用.....	13
2. 製剤の組成.....	4	9. 高齢者への投与.....	14
3. 注射剤の調製法.....	4	10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与.....	14
4. 懸濁剤，乳剤の分散性に対する注意.....	4	11. 小児等への投与.....	14
5. 製剤の各種条件下における安定性.....	5	12. 臨床検査結果に及ぼす影響.....	14
6. 溶解後の安定性.....	5	13. 過量投与.....	14
7. 他剤との配合変化（物理化学的変化）.....	5	14. 適用上の注意.....	15
8. 生物学的試験法.....	7	15. その他の注意.....	15
9. 製剤中の有効成分の確認試験法.....	7	16. その他.....	15
10. 製剤中の有効成分の定量法.....	7	IX. 非臨床試験に関する項目 -----	16
11. 力価.....	7	1. 薬理試験.....	16
12. 混入する可能性のある夾雑物.....	7	2. 毒性試験.....	16
13. 治療上注意が必要な容器に関する情報.....	7	X. 管理的事項に関する項目 -----	17
14. その他.....	7	1. 規制区分.....	17
V. 治療に関する項目 -----	8	2. 有効期間又は使用期限.....	17
1. 効能又は効果.....	8	3. 貯法・保存条件.....	17
2. 用法及び用量.....	8	4. 薬剤取扱い上の注意点.....	17
3. 臨床成績.....	8	5. 承認条件等.....	17
VI. 薬効薬理に関する項目 -----	9	6. 包装.....	17
1. 薬理学的に関連のある化合物又は化合物群..	9		
2. 薬理作用.....	9		

7. 容器の材質.....	17
8. 同一成分・同効薬.....	17
9. 国際誕生年月日.....	17
10. 製造販売承認年月日及び承認番号.....	17
11. 薬価基準収載年月日.....	18
12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容.....	18
13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその内容.....	18
14. 再審査期間.....	18
15. 投与期間制限医薬品に関する情報.....	18
16. 各種コード.....	18
17. 保険給付上の注意.....	18
X I. 文献	19
1. 引用文献.....	19
2. その他の参考文献.....	19
X II. 参考資料	19
1. 主な外国での発売状況.....	19
2. 海外における臨床支援情報.....	19
X III. 備考	19
付表 1—1	20
付表 1—2	21
付表 1—3	22

I. 概要に関する項目

1. 開発の経緯

本剤は、ジピリダモールを有効成分とする冠循環改善剤である。

ジピリダモール製剤である「シフノス注」は、マルコ製薬株式会社が後発医薬品として開発を企画し、規格及び試験方法を設定、安定性試験等を実施し、1974年4月13日に承認を取得、販売を開始し、その後1981年8月31日に薬価収載された。

1998年3月19日、再評価結果が公表され、シフノス注は、製造（輸入）承認事項の一部を変更すれば薬事法第14条第2項各号（承認拒否事由）のいずれにも該当しないとの結果を得た。

その後、2004年12月1日より日医工株式会社から発売する運びとなった。

医療事故防止のため、2006年8月9日に販売名を「シフノス注」から「シフノス静注液10mg」に変更の承認を得て、2006年12月8日より販売の運びとなった。

2009年6月1日にマルコ製薬株式会社は、社名を日医工ファーマ株式会社に変更した。2012年6月1日に、日医工ファーマ株式会社は日医工株式会社に合併され、製造販売元が日医工株式会社に承継された。

医療事故防止のため、2012年8月3日に製品名を「シフノス静注液10mg」から「ジピリダモール静注液10mg「日医工」」に変更の承認を得て、2014年6月20日から販売の運びとなった。

2. 製品の治療学的・製剤学的特性

- (1) 本剤はジピリダモールを有効成分とする注射製剤である。
- (2) 重大な副作用（頻度不明）として、狭心症状の悪化、出血傾向、血小板減少、過敏症が報告されている。

II. 名称に関する項目

1. 販売名

(1) 和名

ジピリダモール静注液 10mg「日医工」

(2) 洋名

Dipyridamole

(3) 名称の由来

一般名より

2. 一般名

(1) 和名 (命名法)

ジピリダモール (JAN)

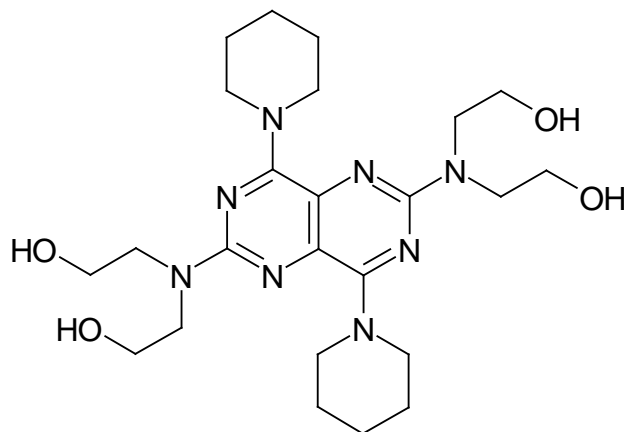
(2) 洋名 (命名法)

Dipyridamole (JAN)

(3) システム

不明

3. 構造式又は示性式



4. 分子式及び分子量

分子式 : $C_{24}H_{40}N_8O_4$

分子量 : 504.63

5. 化学名 (命名法)

2,2',2'',2'''-[4,8-Di(piperidin-1-yl)pyrimido[5,4-*d*]pyrimidine-2,6-diyl]
dinitrilo}tetraethanol (IUPAC)

6. 慣用名, 別名, 略号, 記号番号

特になし

7. CAS 登録番号

58-32-2

Ⅲ. 有効成分に関する項目

1. 物理化学的性質

(1) 外観・性状

黄色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味はわずかに苦い。

(2) 溶解性

クロロホルムに溶けやすく、メタノール又はエタノール (99.5) にやや溶けにくく、水又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

(3) 吸湿性

該当資料なし

(4) 融点 (分解点), 沸点, 凝固点

融点: 165~169°C

(5) 酸塩基解離定数

該当資料なし

(6) 分配係数

該当資料なし

(7) その他の主な示性値

該当資料なし

2. 有効成分の各種条件下における安定性

該当資料なし

3. 有効成分の確認試験法

(1) 硝酸による呈色反応

本品を硫酸に溶かし、硝酸を加えるとき、液は濃紫色を呈する。

(2) 紫外可視吸光度測定法

本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき、両者のスペクトルは同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。

(3) 赤外吸収スペクトル測定法

本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき、両者のスペクトルは同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

4. 有効成分の定量法

電位差滴定法

本品をメタノールに溶かし、過塩素酸で滴定する。

IV. 製剤に関する項目

1. 剤形

(1) 剤形の区別, 外観及び性状

剤形：注射液

性状：黄色澄明の注射液

(2) 溶液及び溶解時の pH, 浸透圧比, 粘度, 比重, 安定な pH 域等

pH	2.5～3.5
浸透圧比（生理食塩液に対する比）	0.8～1.2

(3) 注射剤の容器中の特殊な気体の有無及び種類

窒素

2. 製剤の組成

(1) 有効成分（活性成分）の含量

1 管（2mL）中ジピリダモール 10mg 含有

(2) 添加物

添加目的	添加物
等張化剤	塩化ナトリウム 3mg
安定剤	プロピレングリコール 20mg クエン酸ナトリウム水和物 9mg
pH 調整剤	pH 調整剤 適量

(3) 電解質の濃度

該当資料なし

(4) 添付溶解液の組成及び容量

該当しない

(5) その他

該当資料なし

3. 注射剤の調製法

該当資料なし

4. 懸濁剤, 乳剤の分散性に対する注意

該当しない

5. 製剤の各種条件下における安定性¹⁾

本品につき加速試験（40℃，相対湿度 75%，6 ヶ月）を行った結果，ジピリダモール静注液 10mg「日医工」は通常の市場流通下において 3 年間安定であることが推測された。

加速試験

保存条件	保存形態	結果
40℃，相対湿度 75%，6 ヶ月	最終包装形態＜静注液10mg＞	変化なし

6. 溶解後の安定性

該当しない

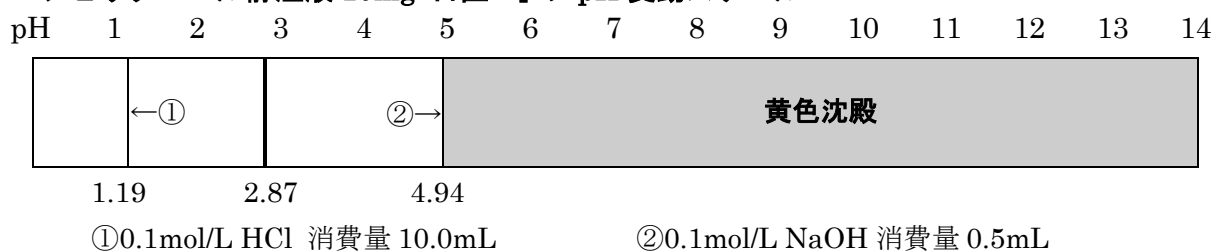
7. 他剤との配合変化（物理化学的変化）²⁾

(1) pH 変動試験

◆ジピリダモール静注液 10mg「日医工」の pH 変動試験

試料	試料 pH	0.1mol/L HCl (A) mL	最終 pH	移動指数	変化所見
		0.1mol/L NaOH (B) mL			
ジピリダモール 静注液 10mg 「日医工」	2.87	(A) 10.0mL	1.19	1.68	—
		(B) 0.5mL	4.94	2.07	黄色沈殿

ジピリダモール静注液 10mg「日医工」の pH 変動スケール



(2) 配合変化試験

ジピリダモール静注液 10mg「日医工」<1 管 (2mL) >と各輸液の配合

試験条件 (配合及び静置条件) : 室温 (26℃) , 室内散光下

(外観変化, 1.0 以上の pH 変化, 残存率 90%未満の場合太ゴシックで表示)

配合輸液 (容量) <成分名等>	試験項目	配合直後	4 時間後	8 時間後	24 時間後	48 時間後
大塚生食注 (500mL) <生理食塩液>	外観	黄緑色の液	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
	pH	4.28	4.29	4.30	4.34	4.31
	残存率 (%)	100.0	100.9	100.9	99.0	99.5
大塚糖液 5% (500mL) <ブドウ糖>	外観	黄緑色の液	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
	pH	4.07	4.10	4.05	4.13	4.02
	残存率 (%)	100.0	102.2	100.9	100.3	99.6
ソリター-T3 号 (500mL) <維持液>	外観	黄緑色の液	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
	pH	5.03	5.05	5.02	5.07	5.01
	残存率 (%)	100.0	101.3	102.3	100.4	100.8
ソルデム 3A (500mL) <維持液>	外観	黄緑色の液	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
	pH	5.63	5.65	5.63	5.64	5.61
	残存率 (%)	100.0	102.2	103.4	101.6	102.7
KN 補液 3B (500mL) <維持液>	外観	黄緑色の液	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
	pH	5.27	5.27	5.24	5.29	5.24
	残存率 (%)	100.0	103.6	101.1	100.5	101.9
ポタコール R (500mL) <マルトース加乳酸リンゲル>	外観	黄緑色の液	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
	pH	4.83	4.81	4.83	4.82	4.80
	残存率 (%)	100.0	101.0	99.9	98.6	98.6
ヴィーン D 注 (500mL) <ブドウ糖加酢酸リンゲル>	外観	黄緑色の液	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
	pH	5.38	5.36	5.32	5.39	5.36
	残存率 (%)	100.0	100.8	100.0	98.8	98.5
ビーフリード点滴静注用 (500mL) <アミノ酸・糖・電解質・ビ タミン>	外観	淡緑色の液	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
	pH	6.74	6.71	6.71	6.74	6.71
	残存率 (%)	100.0	108.4	99.0	85.6	63.7
フルカリック 2 号 (1003mL) <アミノ酸・糖・電解質・ ビタミン>	外観	淡黄色の液	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
	pH	5.06	5.05	5.03	5.06	5.01
	残存率 (%)	100.0	101.0	99.2	98.5	99.1
フルカリック 1 号 (903mL) <アミノ酸・糖・電解質・ ビタミン>	外観	淡黄色の液	変化なし	変化なし	変化なし	変化なし
	pH	5.25	5.24	5.21	5.24	5.21
	残存率 (%)	100.0	98.6	100.5	99.4	99.5

◀添付文書の抜粋▶

適用上の注意 調製時

ジピリダモールの化学的性質により配合変化を起こしやすいので, 他の薬剤との混合注射はしないこと。なおブドウ糖注射液とは混合注射が可能である。

8. 生物学的試験法

該当しない

9. 製剤中の有効成分の確認試験法

(1) 硝酸による呈色反応及び希塩酸による蛍光の退色反応

1) 試料溶液に硫酸を加えた後、硝酸を加えるとき、液は濃紫色を呈する。

2) 試料溶液にメタノールを加えたとき、液は黄緑色の蛍光を発し、更に希塩酸を加えるとき、この蛍光は消える。

(2) 紫外可視吸光度測定法

試料溶液につき、水を対照とし、吸収スペクトルを測定するとき、波長 231～233nm, 283～285nm 及び 398～405nm に吸収の極大を示し、波長 254～256nm, 及び 343～355nm に吸収の極小を示す。

10. 製剤中の有効成分の定量法

紫外可視吸光度測定法

試料溶液及び標準溶液につき、吸光度を測定する。

11. 力価

該当しない

12. 混入する可能性のある夾雑物

該当資料なし

13. 治療上注意が必要な容器に関する情報

該当資料なし

14. その他

V. 治療に関する項目

1. 効能又は効果

狭心症，心筋梗塞，その他の虚血性心疾患，うっ血性心不全

2. 用法及び用量

ジピリダモールとして，通常成人 1 回 10 mg を 1 日 1～3 回徐々に静脈内注射する。
なお，年齢，症状により適宜増減する。

3. 臨床成績

(1) 臨床データパッケージ

該当資料なし

(2) 臨床効果

該当資料なし

(3) 臨床薬理試験

該当資料なし

(4) 探索的試験

該当資料なし

(5) 検証的試験

1) 無作為化並行用量反応試験

該当資料なし

2) 比較試験

該当資料なし

3) 安全性試験

該当資料なし

4) 患者・病態別試験

該当資料なし

(6) 治療的使用

1) 使用成績調査・特定使用成績調査（特別調査）・製造販売後臨床試験（市販後臨床試験）

該当資料なし

2) 承認条件として実施予定の内容又は実施した試験の概要

該当しない

VI. 薬効薬理に関する項目

1. 薬理的に関連のある化合物又は化合物群

チクロピジン塩酸塩, トラピジル, ジラゼプ塩酸塩水和物, シロスタゾール

2. 薬理作用

(1) 作用部位・作用機序

虚血心筋から遊離されるアデノシンの細胞内への再取込みを阻害することにより, アデノシンの血管拡張作用を増強して冠拡張作用を現す。

(2) 薬効を裏付ける試験成績

該当資料なし

(3) 作用発現時間・持続時間

該当資料なし

VII. 薬物動態に関する項目

1. 血中濃度の推移・測定法

(1) 治療上有効な血中濃度

該当資料なし

(2) 最高血中濃度到達時間

該当資料なし

(3) 臨床試験で確認された血中濃度

該当資料なし

(4) 中毒域

該当資料なし

(5) 食事・併用薬の影響

(「VIII - 7. 相互作用」の項参照)

(6) 母集団 (ポピュレーション) 解析により判明した薬物体内動態変動要因

該当資料なし

2. 薬物速度論的パラメータ

(1) 解析方法

該当資料なし

(2) 吸収速度定数

該当資料なし

(3) バイオアベイラビリティ

該当資料なし

(4) 消失速度定数

該当資料なし

(5) クリアランス

該当資料なし

(6) 分布容積

該当資料なし

(7) 血漿蛋白結合率

該当資料なし

3. 吸収

該当資料なし

4. 分布

(1) 血液-脳関門通過性

該当資料なし

(2) 血液-胎盤関門通過性

(「VIII - 10. 妊婦, 産婦, 授乳婦等への投与」の項参照)

(3) 乳汁への移行性

(「VIII - 10. 妊婦, 産婦, 授乳婦等への投与」の項参照)

(4) 髄液への移行性

該当資料なし

(5) その他の組織への移行性

該当資料なし

5. 代謝

(1) 代謝部位及び代謝経路

該当資料なし

(2) 代謝に関与する酵素（CYP450 等）の分子種

該当資料なし

(3) 初回通過効果の有無及びその割合

該当資料なし

(4) 代謝物の活性の有無及び比率

該当資料なし

(5) 活性代謝物の速度論的パラメータ

該当資料なし

6. 排泄

(1) 排泄部位及び経路

該当資料なし

(2) 排泄率

該当資料なし

(3) 排泄速度

該当資料なし

7. トランスポーターに関する情報

該当資料なし

8. 透析等による除去率

該当資料なし

Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）に関する項目

1. 警告内容とその理由

該当記載事項なし

2. 禁忌内容とその理由（原則禁忌を含む）

【禁忌（次の患者には投与しないこと）】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

3. 効能又は効果に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

4. 用法及び用量に関連する使用上の注意とその理由

該当しない

5. 慎重投与内容とその理由

【慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）】

- (1) 低血圧の患者 [更に血圧を低下させることがある。]
- (2) 心筋梗塞の急性期の患者 [血圧低下により症状を悪化させるおそれがある。]
- (3) 重篤な冠動脈疾患（不安定狭心症，亜急性心筋梗塞，左室流出路狭窄，心代償不全等）のある患者 [症状を悪化させることがある。]

6. 重要な基本的注意とその理由及び処置方法

- (1) 本薬の経口剤を投与中の患者に本剤を追加投与した場合，本剤の作用が増強され，副作用が発現するおそれがあるので，併用しないこと。（「過量投与」の項参照）
- (2) 本剤との併用によりアデノシンの有害事象が増強されることから，本剤を投与されている患者にアデノシン（アデノスキャン）を投与する場合は，12時間以上の間隔をあけること。（「相互作用」の項参照）

7. 相互作用

(1) 併用禁忌とその理由

併用禁忌（併用しないこと）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アデノシン (アデノスキャン)	完全房室ブロック，心停止等が発現することがある。本剤の投与を受けた患者にアデノシン（アデノスキャン）を投与する場合には少なくとも12時間の間隔をおく。もし完全房室ブロック，心停止等の症状があらわれた場合はアデノシン（アデノスキャン）の投与を中止する。	本剤は体内でのアデノシンの血球，血管内皮や各臓器での取り込みを抑制し，血中アデノシン濃度を増大させることによりアデノシンの作用を増強する。

(2) 併用注意とその理由

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
キサンチン系製剤 テオフィリン， アミノフィリン	本剤の作用が減弱されるので，併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	テオフィリン等のキサンチン系製剤は，本剤のアデノシンを介した作用を阻害する。

続き

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アデノシン三リン酸 二ナトリウム	本剤はアデノシンの血漿中濃度を上昇させ、心臓血管に対する作用を増強するので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	本剤は体内でのアデノシンの血球、血管内皮や各臓器での取り込みを抑制し、血中アデノシン濃度を増大させることによりアデノシンの作用を増強する。
降圧剤	本剤は降圧剤の作用を増強することがあるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	本剤の血管拡張作用により、降圧剤の作用が増強されることがある。
抗凝固剤 ダビガトランエテ キシラート、 ヘパリン等	出血傾向が増強するおそれがあるので、併用にあたっては患者の状態を十分に観察するなど注意すること。	これら薬剤は抗凝固作用を有するためと考えられる。

8. 副作用

(1) 副作用の概要

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(2) 重大な副作用と初期症状（頻度不明）

- 1) **狭心症状の悪化**：狭心症状が悪化することがあるので、このような場合には、投与を中止すること。
- 2) **出血傾向**：眼底出血，消化管出血，脳出血等の出血傾向があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 3) **血小板減少**：血小板減少があらわれることがあるので、観察を十分に行い、このような症状があらわれた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- 4) **過敏症**：気管支痙攣，血管浮腫，アナフィラキシー様症状等の過敏症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(3) その他の副作用

以下のような副作用があらわれた場合には、症状に応じて適切な処置を行うこと。

	頻度不明
過 敏 症 ^{注)}	発疹，蕁麻疹
精 神 神 経 系	頭痛，めまい，熱感，倦怠感
循 環 器	心悸亢進，胸部不快感，血圧低下
消 化 器	嘔気，嘔吐
そ の 他	胸痛，筋肉痛

注) 発現した場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

(4) 項目別副作用発現頻度及び臨床検査値異常一覧

該当資料なし

(5) 基礎疾患，合併症，重症度及び手術の有無等背景別の副作用発現頻度

該当資料なし

(6) 薬物アレルギーに対する注意及び試験法

- 1) **禁忌**：本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者には投与しないこと。
- 2) **重大な副作用**：気管支痙攣，血管浮腫，アナフィラキシー様症状等の過敏症があらわれることがあるので，観察を十分に行い，異常が認められた場合には，投与を中止し，適切な処置を行うこと。
- 3) **その他の副作用**：発疹，尋麻疹の過敏症が発現した場合には投与を中止し，適切な処置を行うこと。

9. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

10. 妊婦，産婦，授乳婦等への投与

- (1) 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には，治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。〔動物実験（マウス）でわずかに胎児への移行が報告されている。〕
- (2) 授乳中の婦人に投与することを避け，やむを得ず投与する場合には，授乳を中止させること。〔動物実験（ウサギ）で母乳中へ移行することが報告されている。〕

11. 小児等への投与

該当記載事項なし

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

該当記載事項なし

13. 過量投与

- (1) **症状**：本剤の過量投与により一過性の血圧低下，心停止，心臓死，致死性及び非致死性の心筋梗塞，胸痛／狭心症，心電図異常（ST低下，洞停止，心ブロック，徐脈，頻脈，細動等），失神発作，脳血管障害（一過性脳虚血症，脳卒中等），急性気管支痙攣があらわれることがある。
- (2) **処置**：一般的な対症療法が望ましいが，激しい胸痛が発現した場合は，アミノフィリンの静注等の適切な処置を行うこと。

14. 適用上の注意

- (1) **投与時**：急速に静脈内注射をすると、特に高血圧のある患者において血圧が下がることがあるので、ゆっくり注射すること。
- (2) **調製時**：ジピリダモールの化学的性質により配合変化を起こしやすいので、他の薬剤との混合注射はしないこと。なおブドウ糖注射液とは混合注射が可能である。
- (3) **アンプルカット時**：本品はワンポイントカットアンプルを使用しているので、アンプル枝部のマークを上にして反対方向に折ること。
なお、アンプルカット時の異物の混入を避けるため、カット部をエタノール綿等で清拭しカットすること。

15. その他の注意

- (1) 海外において慢性安定狭心症の患者を対象に β 遮断剤、カルシウム拮抗剤、及び長時間型硝酸剤投与中の本剤の追加投与の効果を検討するため、二重盲検法にてジピリダモール徐放カプセル（1回 200mg 日 2回）又はプラセボを 24 週間追加投与したところ、「運動耐容時間」に対する本剤の追加投与の効果は認められなかったとの試験成績がある。
- (2) 本剤を承認外の薬物負荷試験の目的で承認用量を超えて静脈内投与した場合、一過性の血圧低下、心停止、心臓死、致死性および非致死性の心筋梗塞、胸痛／狭心症、心電図異常（ST 低下、洞停止、心ブロック、徐脈、頻脈、細動等）、失神発作、脳血管障害（一過性脳虚血症、脳卒中等）、急性気管支痙攣があらわれることがある。

16. その他

該当記載事項なし

IX. 非臨床試験に関する項目

1. 薬理試験

(1) 薬効薬理試験（「VI. 薬効薬理に関する項目」参照）

(2) 副次的薬理試験

該当資料なし

(3) 安全性薬理試験

該当資料なし

(4) その他の薬理試験

該当資料なし

2. 毒性試験

(1) 単回投与毒性試験

該当資料なし

(2) 反復投与毒性試験

該当資料なし

(3) 生殖発生毒性試験

該当資料なし

(4) その他の特殊毒性

該当資料なし

X. 管理的事項に関する項目

1. 規制区分

製 剤	ジピリダモール静注液 10mg「日医工」	処方箋医薬品 ^{注)}
有効成分	ジピリダモール	なし

注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

2. 有効期間又は使用期限

外箱等に表示の使用期限内に使用すること（3年：安定性試験結果に基づく）

3. 貯法・保存条件

室温保存，遮光保存

4. 薬剤取扱い上の注意点

(1) 薬局での取り扱い上の留意点について

（「貯法・保存条件」の項参照）

(2) 薬剤交付時の取扱いについて（患者等に留意すべき必須事項等）

くすりのしおり：有り

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目を参照）

(3) 調剤時の留意点について

（「Ⅷ. 安全性（使用上の注意等）」に関する項目を参照）

5. 承認条件等

該当しない

6. 包装

10mg／2mL×50管

7. 容器の材質

無色透明のガラスアンプル

8. 同一成分・同効薬

同一成分：ペルサンチン静注 10mg

9. 国際誕生年月日

不明

10. 製造販売承認年月日及び承認番号

	承認年月日	承認番号
ジピリダモール静注液 10mg「日医工」	2012年8月3日	22400AMX00794000

旧販売名	承認年月日	承認番号
シフノス静注液 10mg	2006年8月9日	21800AMX10745000

旧販売名	承認年月日	承認番号
シフノス注	1974年4月13日	149AMZ00101000

11. 薬価基準収載年月日

	薬価基準収載年月日
ジピリダモール静注液 10mg「日医工」	2014年6月20日

旧販売名	薬価基準収載年月日	経過措置
シフノス静注液 10mg	2006年12月8日	2015年3月31日迄

旧販売名	薬価基準収載年月日	経過措置
シフノス注	1981年8月31日	2007年8月31日迄

12. 効能又は効果追加, 用法及び用量変更追加等の年月日及びその内容

該当しない

13. 再審査結果, 再評価結果公表年月日及びその内容

該当しない

14. 再審査期間

該当しない

15. 投与期間制限医薬品に関する情報

本剤は, 投薬期間制限の対象となる医薬品ではない。

16. 各種コード

	薬価基準収載 医薬品コード	レセプト 電算コード	HOT(9桁) コード
ジピリダモール静注液 10mg「日医工」	2171402A1159	620330502	103305202

17. 保険給付上の注意

本剤は保険診療上の後発医薬品である。

X I. 文献

1. 引用文献

- 1) 日医工株式会社 社内資料 (安定性試験)
- 2) 日医工株式会社 社内資料 (配合変化試験)

2. その他の参考文献

なし

X II. 参考資料

1. 主な外国での発売状況

なし

2. 海外における臨床支援情報

なし

X III. 備考

その他の関連資料

なし

付表 1—1

薬食発第 0331015 号（平成 17 年 3 月 31 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 製造方法並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定及び物理化学的性質等	○	×	×
	2 製造方法	○	△	○
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 副次的薬理・安全性薬理	○	×	×
	3 その他の薬理	△	×	×
ホ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
	6 その他の薬物動態	△	×	×
ヘ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 遺伝毒性	○	×	×
	4 がん原性	△	×	×
	5 生殖発生毒性	○	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1 — 2

医薬発第 481 号（平成 11 年 4 月 8 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・科学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	△
	2 苛酷試験	○	×	△
	3 加速試験	○	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 単回投与毒性	○	×	×
	2 反復投与毒性	○	×	×
	3 生殖発生毒性	○	×	×
	4 変異原性	○	×	×
	5 がん原性	△	×	×
	6 局所刺激性	△	×	×
	7 その他の毒性	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の成績に関する資料	臨床試験成績	○	×	×

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される

付表 1 — 3

薬発第 698 号（昭和 55 年 5 月 30 日）に基づく承認申請時に添付する資料

別表 1 及び別表 2-（1）医療用医薬品より改変

添付資料の内容		新有効成分含有製剤（先発医薬品）	その他の医薬品（後発医薬品）	剤形追加に係る医薬品（後発医薬品）
イ 起源又は発見の経緯及び外国における使用状況等に関する資料	1 起源又は発見の経緯	○	×	○
	2 外国における使用状況	○	×	○
	3 特性及び他の医薬品との比較検討等	○	×	○
ロ 物理的・化学的性質並びに規格及び試験方法等に関する資料	1 構造決定	○	×	×
	2 物理的・化学的性質等	○	×	×
	3 規格及び試験方法	○	○	○
ハ 安定性に関する資料	1 長期保存試験	○	×	×
	2 苛酷試験	○	×	×
	3 加速試験	×	○	○
ニ 急性毒性、亜急性毒性、慢性毒性、催奇形性その他の毒性に関する資料	1 急性毒性	○	×	×
	2 亜急性毒性	○	×	×
	3 慢性毒性	○	×	×
	4 生殖に及ぼす影響	○	×	×
	5 依存性	△	×	×
	6 抗原性	△	×	×
	7 変異原性	△	×	×
	8 がん原性	△	×	×
	9 局所刺激	△	×	×
ホ 薬理作用に関する資料	1 効力を裏付ける試験	○	×	×
	2 一般薬理	○	×	×
ヘ 吸収、分布、代謝、排泄に関する資料	1 吸収	○	×	×
	2 分布	○	×	×
	3 代謝	○	×	×
	4 排泄	○	×	×
	5 生物学的同等性	×	○	○
ト 臨床試験の試験成績に関する資料	臨床試験の試験成績	○	×	○

○：添付，×：添付不要，△：個々の医薬品により判断される